

※本文内の（ ）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

## ◎増減が目立った大学

### □増加数最多は横浜国立大、減少数最多は徳島大

大学全体の志願者数の増減数が500人以上だった大学をまとめました。500人以上増加した大学は13大学（国立大10大学、公立大3大学）で前年度の11大学（国立大10大学、公立大1大学）より2大学増加（公立大2大学増加）しました。

増加数が最も多かった大学は横浜国立大で、2,171人(130)増加しました。2021年度にコロナ禍対策として個別試験を中止した影響で、志願者数は4,189人と2020年度比で半減近くになりました。前年度は2020年度までと同じく個別試験を実施したことで反動増が見られました。今年度は志願者数9,471人と、2020年度対比でも1,890人増加となりました。この背景には、横浜地区の鉄道新線開業による、東京や埼玉からの通学の利便向上の影響もあります。以下、山口大、宮崎大の上位3大学が1,000人以上の増加でした。山口大は、前年度最も志願者数が減少した大学で、前期・後期ともに大幅減少した募集単位が多かった反動が増加要因です。宮崎大は、前期はやや増加ですが、後期は医(看護)(56)、農(獣医)(93)を除いた募集単位で増加し、医(医)(308)を筆頭に後期だけで1,100人以上の大幅増加でした。

一方で、500人以上減少した大学は22大学（国立大18大学、公立大4大学）で前年度の15大学（国立大7大学、公立大8大学）より7大学増加（国立大11大学増加、公立大4大学減少）しましたが、中でも国立大の減少が目立ちました。減少数が最も多かった大学は徳島大で、1,484人(73)減少しました。徳島大は前年度3番目に志願者数が増加した大学で、反動による大幅減少でした。以下、岐阜大、福井大、岡山大、茨城大の上位5大学が1,000人以上の減少でした。岐阜大は医(医)<後>の募集停止と募集人員の多い工<後>(66)の大幅減少の影響が大きく、後期のみで1,200人以上の大幅減少となり、大学全体でも大幅減少しました。茨城大は2年連続増加による反動、福井大は前年度大幅増加の反動による大幅減少でした。岡山大は後期募集停止による減少で、前期のみでは微増でした。

#### 〔増加数が多かった大学〕

大学	増減数	志願者指数		志願者数		コメント
		2023年度 ／ 2022年度	2022年度 ／ 2021年度	2023 年度	2022 年度	
横浜国立大	+2,171	130	174	9,471	7,300	前期、後期とも大幅増加で、都市科学<後>(94)を除きいずれも増加。特に、経済<前>(272)は2.7倍増以上。経営<前>(115)は3年連続大幅増加、経済<後>(174)、理工<前>(124)、経営<後>(119)、理工<後>(115)、都市科学<前>(115)は2年連続大幅増加。鉄道新線開通による東京、埼玉からの通学の利便性向上が影響。
山口大	+1,436	127	81	6,821	5,385	前期、後期とも大幅増加。工<前>(175)、<後>(200)はいずれも前年度大幅減少の反動で全学科増加の激増。教育<前>(189)、人文<後>(182)、医(医)<前>(178)も激増。経済<後>(147)、経済<前>(142)、人文<前>(141)、農<後>(140)、医(保健)<前>(134)、農<前>(128)は大幅増加。
宮崎大	+1,172	127	94	5,502	4,330	後期は大幅増加、前期はやや増加。医(医)<後>(308)、地域資源創成<後>(170)はいずれも前年度大幅減少の反動で激増。農<後>(134)、教育<後>(132)、農<前>(129)、地域資源創成<前>(119)はいずれも大幅増加。
大阪公立大	+964	107	96	14,152	13,188	前年度は旧大阪市立大と旧大阪府立大の合計との比較で、前期、後期は大幅減少、中期は大幅増加。今年度は前期、後期は大幅増加、中期はやや減少。商<後>(320)は前年度半減の反動で3倍増以上、看護<後>(211)、農<後>(188)、医(医)<前>(163)、経済<前>(160)は激増。
高崎経済大	+871	117	86	5,961	5,090	前期、後期は大幅増加、中期はやや減少。地域政策<後>(178)は前年度40%以上の大幅減少の反動で激増、地域政策<前>(145)は大幅増加で5年ぶりの増加。

2023 年度入試状況分析【国公立大】

大学	増減数	志願者指数		志願者数		コメント
		2023年度 ／ 2022年度	2022年度 ／ 2021年度	2023 年度	2022 年度	
名古屋工業大	+728	121	87	4,208	3,480	前期、後期とも大幅増加。工<前>(123)は2年連続減少の反動で大幅増加、工<後>(119)は大幅増加、志願者数は2,400人を上回り、募集人員が296人になった2021年度以降で最多。
信州大	+720	112	93	6,559	5,839	後期は大幅増加、前期はやや増加。医(保健)<後>(159)、経法<前>(152)、教育<後>(141)、農<後>(133)、農<前>(121)、繊維<前>(120)、繊維<後>(120)は大幅増加。
静岡大	+715	111	101	6,984	6,269	前期はやや増加、後期は大幅増加。理<前>(197)は前年度大幅減少の反動ではば増倍、工<前>(136)、理<後>(128)、情報<後>(123)、農<後>(123)、工<後>(122)は大幅増加。新設のグローバル共創科学による増加も大きかった。
室蘭工業大	+634	141	118	2,198	1,564	後期は激増、前期は前年度並。理工<後>(188)は個別試験を実施せず、共通テストと調査書の配点で判定する募集区分だが、共通テスト平均点大幅アップの影響で激増。志願者数は1,300人を上回った。
兵庫県立大	+625	111	87	6,293	5,668	前期、中期、後期いずれも増加。看護<後>(194)は激増、社会情報科学<前>(150)、社会情報科学<中>(132)、工<後>(129)は大幅増加でいずれも前年度大幅減少の反動。
北海道教育大	+618	122	80	3,381	2,763	後期は大幅増加、前期は増加。後期は岩見沢校(100)を除いた修学校でいずれも25%以上の大幅増加。函館校<前>(141)は大幅増加で6年ぶりの増加。
一橋大	+548	114	106	4,380	3,832	ソーシャル・データサイエンスの新設により後期は大幅増加、前期は微増。ただし、ソーシャル・データサイエンスを除くと後期は減少、前期はやや減少。なお、前期は募集人員が7%減少したことにより志願倍率は3.1倍→3.2倍にアップ。
東京農工大	+522	116	93	3,737	3,215	前期は大幅増加、後期はやや増加。農(共同獣医以外)<前>(143)は前年度減少の反動で大幅増加。工<前>(129)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。

〔減少数が多かった大学〕

大学	増減数	志願者指数		志願者数		コメント
		2023年度 ／ 2022年度	2022年度 ／ 2021年度	2023 年度	2022 年度	
徳島大	-1,484	73	126	4,107	5,591	前期、後期ともに大幅減少。総合科学<前>(26)は前年度3倍増以上の反動で激減、2016年度の改組以降では最少。理工<後>(56)、生物資源産業<後>(56)、総合科学<後>(56)、医(保健)<前>(73)、生物資源産業<前>(74)、理工<前>(74)、医(保健)<後>(75)は大幅減少。
岐阜大	-1,461	75	107	4,348	5,809	後期は大幅減少、前期は減少。医(医)<後>(前年度志願者数405人)の募集停止も影響。地域科学<後>(55)は大幅減少で2年連続減少、社会システム経営学環<前>(69)は2年連続大幅減少。工<後>(66)、教育<前>(72)、工<前>(76)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。
福井大	-1,323	61	124	2,073	3,396	前期、後期ともに大幅減少。教育<後>(41)は前年度激増の反動で半減以下。医(看護)<後>(53)、工<後>(57)、医(医)<後>(76)は大幅減少、国際地域<後>(85)は2年連続大幅減少で志願者数は100人を下回った。
岡山大	-1,273	73	90	3,405	4,678	後期を廃止したが、前期は微増。医(保健)(188)は、前年度大幅減少の反動で激増、教育(138)、薬(129)、農(126)は大幅増加。一方で、医(医)(50)は前年度大幅増加の反動と第1段階選抜基準を4倍→3倍に厳しくしたことで半減。文<前>(82)は大幅減少で3年連続減少。

## 2023年度入試状況分析【国公立大】

大学	増減数	志願者指数		志願者数		コメント
		2023年度 ／ 2022年度	2022年度 ／ 2021年度	2023 年度	2022 年度	
茨城大	-1,264	81	106	5,342	6,606	前期、後期とも大幅減少。農<後>(59)は前年度3倍増以上の反動で大幅減少、教育<後>(76)、理<前>(78)、工<後>(81)、理<後>(82)はいずれも大幅減少で2年連続減少、農<前>(85)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。工<前>(85)は大幅減少。
鳥取大	-936	78	105	3,256	4,192	前期、後期とも大幅減少。地域<後>(37)は前年度倍増の反動で激減、医(保健)<前>(44)、工<前>(60)、農<後>(67)、地域<前>(66)は大幅減少。
東京外国語大	-796	72	113	2,059	2,855	前期、後期とも大幅減少。国際日本<前>(47)は、前年度倍増以上の反動で半減以下。国際社会<後>(69)、国際社会<前>(71)、言語文化<前>(81)は大幅減少。系統への不人気と、前期では共通テストでの数学2科目必須の負担増も影響。
北見工業大	-745	58	115	1,017	1,762	前期、後期とも大幅減少。工<前>(53)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、志願者数は300人を下回った。工<後>(60)は前年度増加の反動で大幅減少、志願者数は1,000人を下回った。
高知大	-718	76	107	2,225	2,943	前期、後期とも大幅減少。医(医)<前>(147)、医(看護)<後>(103)を除きいずれの学部でも減少。人文社会科学<後>(50)は半減。理工<前>(53)は前年度倍増以上の反動で大幅減少。地域協働<前>(59)、理工<後>(66)、農林海洋科学<後>(73)、農林海洋科学<前>(79)、教育<前>(80)は大幅減少。
新潟大	-715	88	115	5,224	5,939	後期は大幅減少、前期は減少。歯(歯)<前>(76)は3年連続大幅減少。農<後>(53)、農<前>(79)、経済科学<後>(82)、工<前>(83)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。歯(歯)<後>(70)、工<後>(71)、創生<前>(76)、理<前>(79)、人文<後>(81)、歯(口腔生命福祉)<前>(85)は大幅減少。コロナ禍による地元志向の緩和も影響。
香川大	-691	79	107	2,623	3,314	前期は大幅減少、後期はやや増加。医(医)<前>(55)は4年連続増加の反動でほぼ半減。創造工<前>(58)、農<前>(61)、経済<前>(63)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。創造工<後>(82)、経済<後>(82)は2年連続大幅減少。
公立諏訪 東京理科大	-689	66	111	1,328	2,017	中期は大幅減少、前期は大幅増加。工<中>(51)は前年度大幅増加の反動でほぼ半減。公立化して初めての入試の2019年度以来4年ぶりに1,000人を下回った。
京都工芸繊維大	-687	75	104	2,073	2,760	後期は大幅減少、前期は前年度並。後期は募集人員が53%減少したこと、工芸科学(デザイン・建築)<後>の廃止が影響。募集人員の減少により、志願倍率は10.7倍→12.4倍にアップした。
広島市立大	-660	64	98	1,197	1,857	前期、後期とも大幅減少。国際<後>(42)は前年度激増の反動で半減以下、情報科学<後>(62)は大幅減少で2年連続減少、国際<前>(65)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、情報科学<前>(67)は2年連続大幅減少。
山梨大	-641	82	132	2,920	3,561	後期は大幅減少、前期は減少。医(看護)<前>(210)、<後>(165)の大幅増加を除きいずれも減少。生命環境<後>(69)、医(医)<後>(82)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。教育<後>(58)、生命環境<前>(78)、教育<前>(84)は大幅減少。
弘前大	-616	85	158	3,503	4,119	前期は大幅減少、後期は減少。医(保健)<前>(50)、教育<後>(54)、<前>(68)、理工<前>(72)、<後>(79)はいずれも前年度激増の反動で大幅減少。
島根大	-564	84	94	3,043	3,607	後期は大幅減少、前期は減少。医(看護)<前>(35)、<後>(37)、教育<前>(55)は前年度倍増以上の反動で大幅減少。生物資源科学<前>(46)、人間科学<後>(71)、<前>(72)は大幅減少で2年連続減少。総合理工(77)<前>、<後>(78)は募集人員がそれぞれ15%、14%減少で、大幅減少で3年連続減少。教育<後>(66)は大幅減少。
長崎大	-533	88	104	3,910	4,443	前期、後期とも減少。募集人員7%減少の医(医)<前>(60)は大幅減少、歯<前>(56)、情報データ科学<後>(61)、多文化社会<前>(61)、情報データ<前>(68)、環境科学<後>(77)、水産<後>(79)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。教育<前>(85)は大幅減少で2年連続減少。

2023 年度入試状況分析【国公立大】

大学	増減数	志願者指数		志願者数		コメント
		2023年度 ／ 2022年度	2022年度 ／ 2021年度	2023 年度	2022 年度	
岩手県立大	-528	73	120	1,398	1,926	前期は大幅減少、後期はソフトウェア情報<後>を<中>に日程変更したため大幅減少。総合政策<後>(50)は前年度約4.5倍増の反動で半減、総合政策<前>(52)は前年度約2.7倍増の反動でほぼ半減。看護<後>(60)は大幅減少。
電気通信大	-519	86	94	3,192	3,711	前期を大括り募集から類別募集に変更したが、前期は大幅減少、後期は減少。II類<後>(83)は大幅減少で2年連続減少、I類<後>(87)、II類<後>(93)も2年連続減少。
熊本県立大	-514	73	102	1,417	1,931	前期、後期ともに大幅減少。全学部で前期、後期ともに減少。環境共生<前>(62)、文<前>(68)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、文<後>(67)は大幅減少、総合管理<後>(70)は2年連続大幅減少、総合管理<前>(78)は大幅減少で3年連続減少。
佐賀大	-506	90	108	4,565	5,071	前期、後期とも減少。教育<後>(73)、<前>(85)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、経済<前>(83)は大幅減少。